

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694100112		
法人名	社会福祉法人 香東園		
事業所名	グループホーム香東園やましな(貴船1番地)		
所在地	京都市山科区西野野色町15-88		
自己評価作成日	令和4年8月27日	評価結果市町村受理日	令和4年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&ijgyosyoCd=2694100112-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1F		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活スタイルや価値観に合わせ、個別のケアで利用者様が自分らしく、楽しく過ごせる日々が提供できるように努めています。例えば、コーヒーが好きな方には、ゆったりとティータイムを過ごせるように、美味しいコーヒーを用意したり、食欲がない方には、食べたい物をリアルタイムで提供できるように個別の食事の用意を行っています。日中の活動では、くもんの取り組みや、ユニット内で歌や、体操を行っています。また、今まで馴染みの関係の継続を大切に手紙のやり取りの支援やご家族様との関係も大切にしています。身体の状態の把握についても、グループホーム専属の看護師があり、細かな状態の把握ができ、必要時には主治医との連携も密に図り迅速な対応を行っております。24時間連絡が取れる主治医の下、安心して住みなれた場所で最後まで過ごせるように看取りの支援も行ってまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成25年設立の「地域密着型複合施設香東園やましな」の3階に当事業所があり、他に地域密着型特別養護老人ホーム等3事業所を擁しています。併設の老人保健施設や保育園、カフェと共に山科地域の福祉拠点として、また、「地域のお茶の間」として人々が気軽に集う場でしたが、現在はコロナ禍により自粛傾向が続いています。その中でも状況を見て、多数の関係者と対面での運営推進会議を開催し、日頃の様子を知ってもらい、頂いた意見を活かしたり、パーティー越しやリモート面会で家族との交流を支える等しています。縮小しての各種行事では、ドライブ、梅狩り、夏祭り、リモートお茶会、屋上庭園の花や野菜作りのほか、栄養士とともに、定期的食事・おやつレクレーションも楽しんでいます。お正月には施設長自ら利用者一人ひとりにお屠蘇を振舞います。また、ケア会議やサービス担当者会議には、介護職・看護師・栄養士等多職種が参加し、手厚いチームケアを実践されています。そして職員は、日々の充足感によってもたらされる、利用者の美しい笑顔や驚きのことばを「ハッピーワード」と呼び、その収集を大きな楽しみとしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が法人理念の共有ができるように、携帯カードにし、全職員に配布している。理念に沿い、常に利用者の身になって行動できるようにしている。また、事務所に掲示して朝会で毎日復唱している。	法人理念と指針に基づき、他職種と共にユニット目標である「利用者様、それぞれのお好きな事、得意な能力を発揮して頂くお手伝いをする。」を定め、休憩室の内側扉の見えやすい所に掲示している。行事や日々のケアの振り返りと関連づけて、毎月のケア会議で目標の実践状況を確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍以前は地域の一員として、地域の区民運動会や祭りなどの行事に参加していたが地域の行事も自粛されており参加できていない。 ボランティアの音楽会、お茶会はZOOMで開催している。 地域保育園との交流もZOOMで行っている。	地域密着型複合施設の茶室で地域の方がお茶をたてる様子をテレビでリモート配信し、利用者はお茶室と互いに交流しながら、たてたお茶を頂いている。地域の方から出荷前のキャベツ、大根、栗等を頂き、他にマスクやタオル等の寄贈もある。農園の方が来所し苺の手摘みをさせてくれ、地元スーパーのキッチンカーが来ると、利用者とお菓子等の購入をしている。11月の地域行事、西野祭りには、職員が参加する予定である。地域向けのイキイキ教室で専門職が講師を持ち回り、当事業所も担当スタッフとして参画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で認知症の勉強会を行っていない。 地域包括を中心とした認知症サポート連絡会の組織の一員として活動し、ZOOM会議等も積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度の開催で、近隣の4学区の自治会長や民生委員、2つの地域包括支援センター職員にも参加していただいております。事業所の取り組み報告や、防災・地域行事などを意見交換している。昨年度は書面開催であったが、今年度は4月・6月は開催。8月は書面開催であった。	運営推進会議は地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護事業所とともに2ヶ月ごとにおこない、多くの関係者の参加を得ている。対面での開催回数も増えてきた。利用者の状況や活動報告、ヒヤリハット、健康管理、地域への情報提供、職員異動等について記載し、楽しいイベントは写真付きで紹介している。書面開催の場合は直接委員宅に伺い意見や助言を聞き、次に活かしている。議事録は行政、参加者全員、家族及び近隣に配布している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の議事録の報告のほか、ZOOMでの研修などがあれば積極的に参加するようにしている。 介護保険の更新は京都市介護認定給付事務センターに郵送で申請している。	医療連携の一環として、市が医師会に委託している山科区在宅医療・介護連携支援センターの一員として活動している。やましな認知症サポート連絡会の会員として会議やイベントに関わっている。事故報告等を行政に届け出ている。消防訓練の際は消防署の立ち合いがある。	

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置しており、全職員参加の研修会を年2回開催している。ユニット会議でも毎月確認を行い、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアが実践できている。センサーマット使用については毎月必要性の検証を行っている。	身体拘束廃止の指針を定め、法人全体で毎月委員会を開催し、参加職員はユニット会議で報告し、議事録は、会議に参加できなかった職員の個人BOXにも入れている。センサーマット使用者は検討記録を残している。職員は年2回動画研修のレポートを提出している。花などを見に行きたい方には付き添い、「今日帰ります」と言われる方には「明日ですよ」と言うのと納得されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修と職員向けの虐待チェックを行っている。事例検討会で他の事業所の方と意見交換を行ったりしながら、利用者に寄り添うケアで虐待防止できている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や相談員は成年後見制度に関する研修会に参加し、理解をしている。年1回、権利擁護に関する研修の実施をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、重要事項説明書を元に説明し、不安や疑問等ないか確認し、不安等が解決するまで傾聴し、説明している。重要事項説明書に改正があった場合には文章で説明し、理解・納得をしていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書には相談窓口の連絡先を明示している。家族の面会時には職員が積極的に話し、遠慮なく意見や要望を伝えてもらえるように努めている。年4回グループホームだよりを発行し、利用者ごとに写真を載せて報告している。	普段から利用者には会話の中で要望を聞き、家族からは面会時、通院同行の際、年1回のアンケートで意向を聞いている。直接面会したいという声に応え、リモートやビデオ送信と並行して、15分間のパーティー越し面会を実施している。好きな食べ物、ノンアルコールビール、おやつ、果物等を家族から預かり、適時に提供している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニットリーダーや役職者が年2回は個人面談を行っている。面談時に職員の意見や提案を聞いている。その他適宜必要と思われるときには、役職者や、施設長が個人面談の機会を設けている。ユニット会、リーダー会、相談員会、看護部会などの会議も毎月開催し、運営に反映させている。	朝会、ユニット会議、ケア会議等で意見を述べ、前向きに受けとめてもらえる環境がある。年2回の個人面談でも、取りたい資格、異動希望等が言え、上司や同僚に子育てや介護の悩みを聞いてもらえる。また、子育て中は、正職員のまま短時間就労ができる。職員が前職で培った技能を発揮できるように役割を振り、働きやすさや意欲向上への配慮があると職員から聞き取った。全職員が何らかの委員会に属し、発言し、学び、成長できるようにしている。職員定着率は高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ZOOMでの外部研修への参加や資格取得へのアドバイスや勤務調整を行っている。ユニット内での努力や実績を発表する機会を設けたり、目標を定めて向上心を持って働けるように努めている。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修や毎月の内部研修のほか、それぞれの職員に適した認知症実践者研修等の外部研修にも積極的に出席できるような勤務調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型居住系委員会への参加や、地元の医療法人の(医師、薬剤師、看護師、リハビリ職員、栄養士も参加)の事例検討会にも適宜参加して、日々の業務に生かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、今まで利用していたサービス事業者や本人、家族から情報収集し、入居後も今までと変わらない生活(暮らし)を出来る限り継続出来るように、支援している。入居後も安心出来るように傾聴し本人の意向に合わせたケアを行っている。24時間シートやセンター方式シートを活用している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の想いを聞き、感じ取り、その想いに沿った支援ができるように介護計画を作成して、多職種で連携して支援していくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自分でできていること、できなくなっていること、本人・家族が望む支援を見極め、一人ひとりの状態や想いに沿った必要としている支援を行っている。 生活リハビリや意欲に沿った支援を取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今までの生活歴を把握し、人生の先輩として敬意をもち、コミュニケーション取っている。できることを一緒に行なったり、お茶会や調理を一緒にした際、利用者から教えてもらえる事が多い。お互いが感謝しあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や気になることがあれば、家族にその都度連絡している。本人より「家族に会いたい」と希望があれば面会に来てくれたり、電話をしてくれたり、好物を持参されたり、本人の生活の質の向上に向けて職員と家族が協力して行っている。本人には家族がいつも見守ってくれていることを日々伝えている。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの人や場所の把握に努め、家族の協力も得て、馴染みの人が面会に来られた時には、継続してきていただけるような言葉がけをしている。	家族・友人の面会やリモート面会、電話・手紙の取次ぎ等を支援し、年4回発行のグループホーム便りを送付し、家族に様子を知らせている。外の仕事が好きの方は屋上庭園で農作業に勤しみ、花の好きな方は屋上や保育園横の花を見に行っている。家事の好きな方は洗濯物畳みや得意なことをされている。ケア向上委員会が館内放送の7チャンネルから流す音楽と映像を見ながら体操をされる方もいる。季節行事では1階エントランスの、祇園祭の提灯飾りや祇園囃子に夏を感じ、暮れの餅つきでは、職員より上手に杵で餅をつく方もおられる。訪問理・美容で染めやパーマをかける方もあり、歌詞カードで昔の歌を歌う等、以前からの習慣や楽しみを継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を理解して、孤立することなく、自由に気兼ねなく過ごせるように配慮した居場所作りを行っている。利用者同士の関係性を観察して、想いやりや優しさを感じることができている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方には、病院と連携取り、状態の確認を行っている。またサービスが終了した利用者の家族が来園してくれた際は、ゆっくりと話を聞くなど、サービスが終了しても関係が断ち切れることのないように、家族の相談、支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの意向や希望を把握して、できる限り意向に沿った援助ができるよう介護計画を立て支援している。利用者ごとの24時間シートを作成して、日々の生活の中に取り入れて実践している。	介護ソフトのフェイスシートに、以前の施設や家庭からの聞き取りを記入し、事業所目標に沿って、どこに行きたいか、何をしたいか、何を食べたいか等の希望を聞き、実現に向け支援している。菩提寺への寺参りを実現した方、自宅訪問の予定を家族と調整中の方もおられる。24時間シートには自分で出来ることと、支援が必要な箇所を細かく分け、過介護を防いでいる。日々の記録は、ケース記録と支援経過記録に書き留めて共有し、介護職以外に看護職もすべての利用者を把握し、詳細な記録をしていることを確認した。	ケアチェック表をアセスメント表として詳細な支援方針を組立っていますが、本人の訴え欄の記載が乏しく、本人の訴えと支援内容のすり合わせが不十分です。本人が何を望み、それに対し支援者側がどのように対応するのか、双方の関係性が分かる様な記述が望まれます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前情報や本人や家族(面会時など)から生活歴など会話しながら今までの暮らしを把握している。また収集した情報を日々の生活に反映させたり、24時間シート、センター方式シートやケース記録などで情報共有できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	担当看護師と連携して、日々の状態や言動・行動を観察して、心身の状況の変化がないか確認している。悩みや不安、ADLの変化などあれば、ユニット職員や家族とも共有している。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当看護師と連携して、日々の状態や言動・行動を観察して、心身の状況の変化がないか確認している。悩みや不安、ADLの変化などあれば、ユニット職員や家族とも共有している。	モニタリングやケア会議の結果や、本人・家族の意向を踏まえてアセスメント表を作成し、施設サービス計画に反映させている。ケア会議・サービス担当者会議には、看護師・栄養士等の多職種が参加して方針を共有している。計画の更新は長期目標の終了時(概ね1年)や、短期目標の終了時(概ね6ヶ月)におこなうが、個々の安定度によって期間は異なる。6か月以内でも状態変化や認定期間満了があれば、随時更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中や夜間の様子を毎日ケース記録に残している。体調の変化は看護師や主治医にも報告して改善できるように支援している。本人の喜んだことや、できるようになったことはケース記録等で情報共有している。情報を元に介護計画の見直しを行い実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診や外出支援、買い物代行など、その時のニーズに対応できるようにしている。また複合施設の強みを生かし、栄養士やリハビリ職員やドライバーにも協力を得て対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度も地域ボランティアの方に来ていただくことが難しい状態であるが、ユニット単位でビデオでのボランティアの方の歌を聞いたり、地域のいちご農園の協力を得て、フロア単位でイチゴ狩りを体験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	グループホーム入居前からのかかりつけ医を継続していただくこともできるが、待ち時間や移動などが困難になり、家族や本人の負担が大きくなり、看護師や相談員も同席し状況報告を行い、グループホーム往診に来てくれている医師の紹介も行っている。	ほとんどの方が事業所の協力医療機関に変更され、月1~2回の訪問診療を受けている。皮膚科も2週間に1回の訪問診療がある。在宅時からの専門病院や眼科受診には家族が付き添い、必要に応じて職員も付き添っている。現在、認知症専門外来受診の方はおられない。看護師とは24時間オンコールでつながっており、夜間の発熱や急変時には連絡し、状況に応じて看護師から主治医に連絡を入れ、指示をもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム内に専属の看護師も居り、介護職が気づいたことを報告できている。また夜間帯はオンコール体制で急変時や体調不良時、事故などが発生したときに連携して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急受診には看護師または相談員が付き添い、家族へ引き継いでいる。入院になった場合は情報提供書を作成し、病院との連携に努めている。入院後も家族の希望があれば一緒に主治医の説明を聞いたり、退院後の体制の説明を行うことで、早期退院に向けて支援している。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の看取りの指針の説明を行い、急変時及び終末期の対応に関する意思確認を行っている。また適時家族や主治医に対し事業所ですることができることを十分に説明しながら、最後まで希望に沿った支援が、馴染みの生活の継続が出来るように支援している。	「看取り介護に関する指針」に沿い、入所時に詳しく説明をしている。看取り希望の方には、精神面のケアを中心とした介護であることを伝え、急変時及び終末期の対応に関する事前の意思確認書に同意をもらっている。職員は看取りのWeb研修を受け、ユニット会議で看取りに入られた方の対応を話し合い、方針を共有している。看取り期には家族も居室で面会されている。職員の不安軽減のために心拍モニターを導入し、急変時は管理者や看護師もすぐに対応できる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各ユニットに緊急時対応マニュアルを配置し、定期的に応急手当訓練を受講している。また看護師や責任者へいつでも連絡できる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各ユニットに災害時マニュアルを設置し、年2回の防災訓練を行っている。訓練には地域の方や消防署員も参加している。職員も地域の消防団に入っている。食料の備蓄も整えている。	以前は運営推進会議のメンバーも訓練に参加していたが、コロナ禍で入ってもらえないので、スライドショーで初期消火、通報、避難誘導訓練の様子を観てもらっている。消防署も立ち合い、昼夜想定火災訓練と振り返りを年2回おこなっている。5分以内の初動と、利用者を避難口に誘導する訓練をしている。風水害の訓練では、事業所は3階にあるため、受け入れる側として職員が低層階に援護に駆けつけ、誘導している。地域の福祉避難所になっているため備蓄も3日分蓄えている。また有事にすぐに駆け付けられる2キロ圏内のスタッフをリストアップしている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室やトイレの扉を開けるときには必ずノックをして了解を得てから開けている。 本人の自尊心に配慮し、プライバシーが守れるケアと言葉かけを、チームで意識している。	法人内研修として接遇・ハラスメント研修をおこなっている。身体拘束や尊厳に関するアンケートを取り、問題があれば再研修をしている。見たことがある、あるいはどこかで起こっている不適切事例を収集し、ケア会議でも振り返っている。利用者と呼ぶときは、「～ちゃん」のような声かけはせず、名前で呼び、職員間で排泄の有無や間隔を確認する時も利用者に聞こえないように紙に書いて伝えるようにしている。トイレ使用時や入浴時等に扉はきちんと閉めるように心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や発言から、想いをくみ取ったり、選択や返答が容易になるように配慮した質問をすることで、ニーズが把握できるように努めている。職員と信頼関係が築ける為、個々の関わりに時間をかけられるように工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食生活など本人の希望に沿ってできる限り個別に対応している。 嗜好品の購入や、新聞の定期購入などの支援も行っている。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔や髭剃り、髪型や衣類など、本人の希望を取り入れ、気候に合った選択ができるよう、家族と協力して支援している。洗濯や衣替えなども一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回手作り昼食作りを行ない、一緒に調理したり、盛り付け、片付けをしている。日々の会話や食事の様子を観察し、好みの把握に努め、味付けや調理方法等も工夫して、喜んで食べていただけるよう努力している。	日々の食事は厨房から届いたものを提供し、ご飯はユニットで炊いている。月1回はイベント食、週に1回は手作り食で、利用者がメニューカタログを見て献立を選び、業者から食材を購入している。栄養士とともに好み焼きやどら焼き、アジサイゼリー、かぼちゃのケーキなどを作り、包丁を使ったり、材料を混ぜたり、分けたりする利用者もおられる。隣接のカフェで居酒屋をしたり、ピヤガーデン(ノンアルコール)も楽しみ、誕生日にはカフェのパティシエによる本格ケーキを味わっている。屋上でそのままの形で秋刀魚を焼き、利用者は「煙たい」と言いながらも上手に骨取りをされている。おやつは週3回事業所から提供し、それ以外は家族に本人の好みのものを購入してもらっている。本人の状態に合った食事形態で提供し、食器は清水焼を使用しているが、必要に応じて色合いや材質(軽量の物へ)を変更している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	看護師や栄養士と連携し、食事、水分量の確保に取り組んでいる。1人ひとりの状態に合わせ食事提供している。(治療食や分量、嗜好、咀嚼・嚥下状態等)食習慣や好物の把握に努め、できるだけ希望に沿った支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員が週1回の歯科衛生士の口腔ケアを受けている。職員が歯科医師の指導を受けて、毎月目標を立てて、全利用者の口腔ケアを実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、一人ひとりに合った排泄ケアを実施。月1回排泄委員会で、外部業者(花王)と連携し、評価・アドバイスを受けている。日中は全員の方がトイレで排泄できるように取り組んでいる。夜間は安眠を優先。夜間用のパッドを使用して対応している。	排泄表から本人のタイミングを計り、適時に声かけをしている。ユニット会議で月1回排泄の検証会をおこない、適切な支援の時間や方法、排泄用品の種類や容量について話合っている。入所後しばらくは尿量を量り、布パンツに変更できるかの試みをおこなっている。おむつ業者にアドバイザーとして新人研修の講師を依頼している。日中はトイレでの排泄を支援し、夜間は無理に起こすことはせず睡眠を優先し、起きてこられた方には付き添い、誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便間隔の観察を行い、看護師に報告している。なるべく自然排便できるように、排便できる時間を把握しトイレ誘導行ったり、トイレでの姿勢に配慮したり、腹部マッサージを行っている。水分量の確保・運動を日々行い自然排便に繋がるように取り組んでいる。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	檜風呂の個浴で、週2回以上本人のペースに合わせて入浴実施している。約2・3日におきの入浴となっているが、本人の希望で入浴日や入浴時間を随時変更している。	週2回午前中の中の入浴を基本としている。檜の浴槽で一人ひとり湯をオーバーフローにして入浴している。同性介助を希望する方は現在はおられない。浴槽にリフトが設置され、重度の方も全員湯につかることができ、必要に応じて2人介助もおこなっている。ゆず湯・しょうぶ湯など季節湯も楽しませている。シャンプーやせっけんは常備しているが、本人や家族が希望されれば個人の物も使用している。入浴拒否の方もいるが、職員の巧みな声かけにより、問題なく入浴され、入浴後は機嫌が良くなっている。入浴後の保湿剤は介護職員が、塗り薬は看護職員が塗布する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて就寝している。眠たくなってきたら、自由に自身の居室に戻り休んでもらっている。自分で自由に移動できない方に関しては希望を聞いたり、状態を観て居室誘導している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用中の薬情報はいつでも確認できるようにファイルに整理している。毎日の配薬は看護師が行い、介護職員と一緒に確認している。服薬時は2人の職員でチェックを行い、服用してもらっている。変化があれば記録に残し看護師、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の能力に応じた役割を持っていただき、感謝や励ましの言葉を掛けて、生きがいに繋がるように支援している。嗜好品や趣味の継続、レクリエーション等の計画を行い実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	初詣や花見など季節ごとの外出レクリエーションはドライブレクにはなるが、できる限り計画をして実行している。	広い屋上庭園の一角にユニットごとの菜園を設け、利用者はそこで野菜やひまわりなどの花を育て、日々水やりに出かけている。きゅうり、ナス、ししとう、トマト、さつまいもなどを収穫し、収穫祭を行っている。紫陽花の季節には、法人の広い敷地内に植えられた多種の紫陽花を見に行っている。コロナ禍のお正月には、実際の初詣に行かれた方もいるが、神社の鳥居や賽銭箱を模したもの、手造りのお金を入れ、参拝している。外出行事はあまりできないが、屋上でのバーベキューや、隣接のカフェ貸し切りでの喫茶、新緑ドライブや紅葉ドライブ等、できる事に取り組んでいる。個別レクリエーションの一環として、念願のお寺参りを実現して喜ばれた。他の利用者の帰宅の要望も叶える方向で調整している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は家族の了承を得て、必要時は事務所で立替えて、後で家族に請求している。		

京都府 グループホーム香東園やましな(貴船1番地)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や本人の希望に沿って、電話や手紙のやり取りを支援している。年末は年賀状を準備し、書くことが難しい方は代筆し、投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングのテーブルは一人ひとりの居心地に配慮して配置している。 季節に合わせた飾り付けや、リビングに観葉植物を置いたり、屋上に植えている生花を摘んできて飾ったりしている。 掲示物は利用者の目線に合わせて掲示し、トイレはわかり易いように表示している。	玄関のガラス扉にはレクリエーションで制作したハロウィーンの折り紙が貼られ、リビング壁面には利用者が制作した季節の絵が飾られている。リビングのフロアは広く、キッチンアイランド型でゆったり作られている。テーブルは円形や四角形のもの複数置かれ、その時々用途やメンバーにより、少人数に分かれて座ったり、つなげたりできる。所々に観葉植物が置かれ、利用者はゆったりと大小のソファで寛ぎ、食事や趣味、各種レクリエーションを楽しみ、11時にテレビの館内放送の7チャンネルから流れる体操の動画を見て、体操をされる方もいる。キッチンの横には手洗いがあり、電解水が出て手指の洗浄ができる。日に2回の一斉清掃の時間には、できる方には自分の周囲を拭くように声をかけている。暖かい色の和風照明が落ち着きを感じさせる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間スペースも広く、自由に歩行したり、ソファに座り、テレビをみたり、新聞を読んだり、利用者同士で会話したり、それぞれの居心地に配慮した設置をしており、個別のペースで過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にお願いして、本人が落ち着けるような馴染みの物を持ってきていただいたり、家族写真を飾って、安心できる場所になるように努めている。	居室の入り口には温かみのある木の手作り表札がかけられている。部屋は広く、天井までの掃き出し窓でとても明るい。大きな鏡のついた洗面台、エアコン、ベッド、クローゼットタンスが備え付けられている。自宅から、ソファ、テレビ、テーブル、家族写真、仏壇や位牌等を持ち込まれ、職員とともに、住みやすさや安全性を考慮した配置にしている。布団はレンタルで、リネン類は週1回交換している。身体状況により、リハビリスタッフと相談の上エアマットを使用される方もいる。毛布等は気に入った物を持ち込み使用することができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室も車椅子になっても十分に使用できている。手すりを使い自力歩行や立位がとりやすい環境になっている。トイレは、なるべくわかりやすいよう表示して、不安なく生活できるように工夫している。歩行が不安定な方には伝い歩きができるような居室の環境づくりをしている。		